



広徳寺通信 90号

お寺の裏庭が紅葉でいろどられました。大雨で池もまんまんと、空ゆく雲をあるがままに映しています。

かつては何時間もかかっていた洗濯も、ボタン一つで短時間で終わらせることができ、数日かかっていた移動も車や飛行機、電車のおかげでずいぶん楽になりました。今では物と物とがインターネットでつながりスマホ一つで事足りる。「時短」の時代。明らかに昔よりも時間が余っているはずなのに、なぜこんなに忙しいのでしょうか。釈徹宗さんは、時間というのはカレンダーや時計の針で知るような客観的な時間だけではない、といいます。私たちの体の中には、私たちにしか感じることでできない、時計では計ることのできない主観的な時間が流れています。この内側の時間を大切に、育むことができる唯一の方法こそ、伝統的な宗教儀礼に身をひたすこと。どんなに時間が余っても内側の時間が萎縮しては、精神底に余裕なく、しんどくなってきました。内側の時間を延ばすため、お寺・仏壇にどうぞお参りください。合掌。

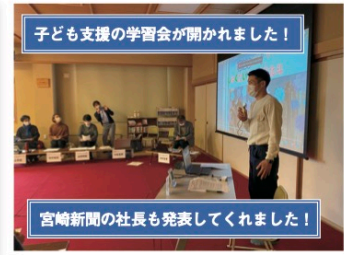
現代人はひと昔前よりもずっと時間があまってしまっている。でも、あきらかに現代人の方が忙しくなっている。時間に余裕がない。あらためて考えてみればおかしな話ではありませんか。

(釈徹宗『異教の隣人』より)

Letter from Koutokuji Temple
Since 1736 発行元 曹洞宗慈眼山広徳寺
令和三年十二月一日発行



管理栄養士として活躍しているお禮家の木幡恵子さん。NCVのテレビの料理番組でもおなじみ。函館短大の名誉教授もされていて多忙中、広徳寺で毎月行っている「地域食堂まんまる」のフードパントリーで、調理の協力をしてくださっています。10月は短大の学生さん4名も来て、食品を受け取りに来た家族に締めめもつくってくれました。人と人との地域の輪が広がっています。お寺参りでいただいているお米もこの時にお配りしています!ありがとうございます!



11月6日(土)広徳寺を会場に「北斗市子ども支援のための学習会」が開かれました。広徳寺の子ども食堂「地域食堂まんまる」が企画開催。北斗市で子どもの放課後学習支援活動や、子ども食堂などを運営する団体が集まり、地域行政、社会福祉協議会、教育関係者など32名が集まり活動報告しました。子ども支援は様々な社会問題を解決する糸口となります。ゆるやかに長く続いていきますように。



ばいかりゆうえいさんか
梅花流詠讃歌
土曜日 / 月2回程
懐かしいしらの御詠歌をお唱えしませんか?

あさ **朝のお勤め** 毎朝6時40分 / 予約不要
早朝の本堂で15分のお参り。手ぶらでお越し下さい。
① ② ③
QRコードとFacebookアイコン
◀コチラで朝のお勤めをご覧ください!>

寺こや
子どもが子どもらしく遊び学べる場所を。
境内で遊ぶ日時のご連絡をしますので、ご希望の方はこちらから登録ください。

お寺でボディメイク
12月11日 1月8日, 2月5日
かんたん体操してみませんか? 講師は水戸麻衣子先生です!
参加費 1,000円 (割引有) 土曜日夜6時半
※予約制ですのでお電話下さい。(73-2032)

(10月の日曜日の朝のお勤めの様子を動画で撮影しました)
新型コロナウイルス感染防止対策として、行事の参加にはマスクの着用・手指の消毒をお勧めしております。各行事は十分な換気・ソーシャルディスタンスを考慮した内容としております。体調不調ある方は行事の参加をお控えください。感染状況を鑑みて行事を中止する場合もございます。



お陰様で山門が完成いたしました



山門扉は継ぎ目のない一枚板。



11月16日山門が完成しました。総檜(けやき)造りの四脚門(しきゃくもん)。屋根のかたちは改築前の本堂と同じ向唐門(むかいからもん)の造りです。地蔵堂も新しくなり、お地蔵さんも嬉しそうです！



山門天井。けやきの木目の美しさ。



お地蔵様もお引っ越し完了！



山門通り初め式の様子。



法話が聴けます



◀山門完成のお祝いの日に副住職から「ありがとうございました」の法話をいたしました。山門をくぐる意味、お寺に足を運ぶことの功德についてのお話をお聞きいただけます。

広徳寺が上磯の地にはじまり三百年。その節目に山門が建立されました。三百年前にはここには何もありませんでした。「一茎草(いつきょうそう)を拈(ねん)じて宝王刹(ほうおうさく)を建て、一微塵(いちみじん)に入りて大法輪(だいはりん)を転ずる」と道元禅師はいいます。一本の草をもつて常寂光の大伽藍が建立される。しかし、ただ木を組み合わせたものが山門ではありません。この木が組み、石が敷かれ、瓦がふかれた、その後ろには、広徳寺を三百年にわたり心を寄せ、支えてくださった人々の息づかいがあります。そこには、お経を唱え続けた歴代の住職の息づかいがあります。五十年前に境内を掃きよめてくれた男性の息づかいがあります。百年前に子どもを亡くしたお母さんの息づかいがあります。二百年前に境内で遊んだ子どもたちの息づかいがあります。三百年前にお寺で食事をつくりお参りの方にふるまった方の息づかいがあります。一つ一つは一本の草のような小さな営みでも、仏に寄せる心がこの地を広徳寺にし、今ここに山門を建立させました。たくさんの方に見えない功德の風が皆様に喜捨の気持ちを起こさせ、ご寄付いただき、このような形になりました。三百年記念事業にご理解・ご協力いただきありがとうございます。来年には参道を含めた境内外構工事、六年後には大法要もごさいいます。

山門を通るといふ功德

山門の両扉は越前ケヤキの一枚板。両手広げてもまだ広い幅の扉ですから、どんなに太い幹だったでしょう。越前福井の雪深い山奥にひっそりと六百年近く生きてきた天然の木のぬくもりがあります。

お寺には、日常生活とは違う時間が流れているようです。私たちも、死を迎える時には、今手に持っている物、握りしめているものをすべて手放さなければなりませんから、生きていくうちに何度もそれを手放す練習しないとイケない。そしてそのような練習ができる場合は世の中に一つしかありません。それが、お寺。

とすれば、何度も足を運んだほうがいい。山門を通るたび、あらゆるものが私を仏として迎えてくださり、支えてくれていることに気づく。山門を通るといふ功德です。

山門通り初め式がお勤めされました

11月18日(木) 今年最後のお寺参りの法要がお勤めされました。今回のお寺参りでは駅尊成道会(お釈迦さまがおさとりになったことをたてる法要)の前に、山門通り初め式が修行され、山門の完成がお祝いされました。よい具合に雨にも濡れることなく、大播という太鼓の音の中、住職と総代役員が山門より行列で本堂に入りました。30数年前に現住職が7世となったとき、本堂に入ると拍手で迎えられるように、山門開通を迎えた今日、同じように拍手で迎えられました。「胸が熱くなりました」と住職。



婦人会にお手伝いいただき、お寺でとれた栗ご飯が振る舞われました！

◀山門通り初め式前にお唱えされた御詠歌をお聞きいただけます！

